

# 令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証シート

## 全体の概要

横 堤 小学校	児童数	120
---------	-----	-----

## 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	17.03	20.26	29.18	39.26	45.45	9.34	152.91	19.08	51.80
大阪市	16.40	19.40	32.70	39.96	48.15	9.41	149.30	21.44	52.53
全国	16.37	19.80	33.24	41.74	50.32	9.42	151.45	21.61	53.61
女子	16.33	19.02	35.55	38.95	36.75	9.52	146.20	13.33	54.78
大阪市	16.15	18.51	37.54	38.38	38.97	9.65	142.68	13.31	54.47
全国	16.09	18.95	37.62	40.14	40.79	9.64	145.68	13.61	55.59

## 結果の概要

男子、女子ともに実技調査9項目中4項目(握力、上体起こし、50m走、立ち幅跳び)が大阪市、全国の平均値を上回っている。女子についてはさらに3項目(反復横とび、ソフトボール投げ、体力合計)が大阪市の平均を上回っている。

また、本校の課題である「立ち幅とび」の記録が昨年度と比較し、男子で4.98cm(H30 147.93cm→R1 152.91cm)、女子で5.73cm(H30 140.47cm→R1 146.20cm)伸ばすことができた。

一方、シャトルランと、ソフトボール投げは、全国数値を大きく下回る結果となった。

## これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

子どもの体力向上の取り組みとして、今年度も「鉄棒強化月間」、「なわとびタイム」、「かけ足タイム」などを実施した。5、6年生では「本物に触れる」機会をつくり、バレーボールの元オリンピック選手や現役のバレーボール選手を招き、講話や実技指導をしていただいた。また、4年生では、「走り方教室」を実施し、プロの方に指導していただいた。

その中で、握力については、「鉄棒強化月間」で鉄棒に取り組む児童が多く、鉄棒を握る機会が多くなっていることにより、大阪市、全国を上回っていると考えられる。

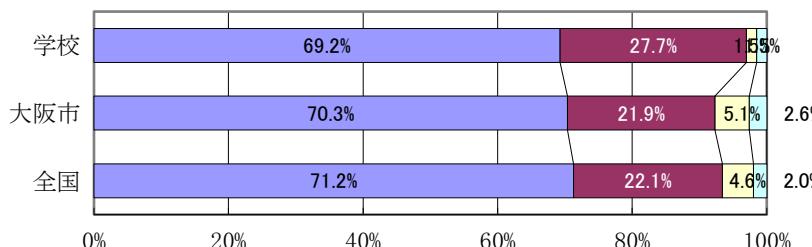
しかしながら、実技調査9項目のうち、男女とも5項目が全国平均を下回った。この結果を受けて、次年度より体育の授業の始まりの5分間に子どもの発達段階、領域に応じた準備運動を取り入れ、それを継続させることで子どもの柔軟性、瞬発力、体幹を鍛えていく。

## 運動やスポーツについて（男子）

質問番号	質問事項
------	------

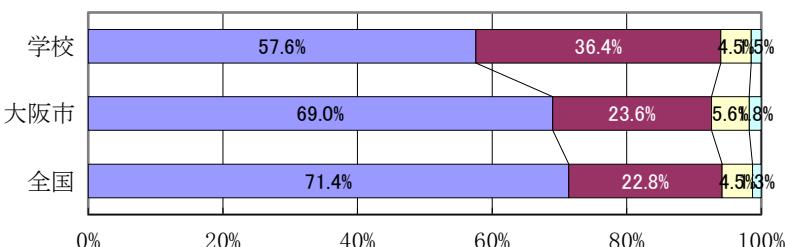
1

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすること好きですか



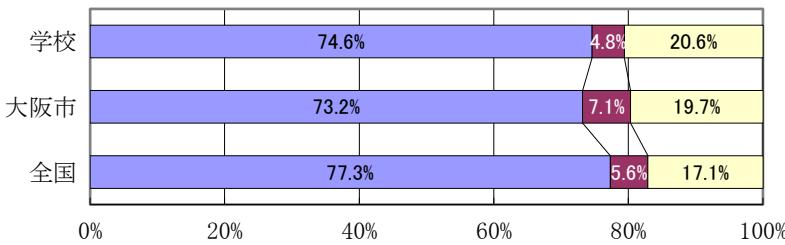
3

あなたにとって運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツは大切ですか



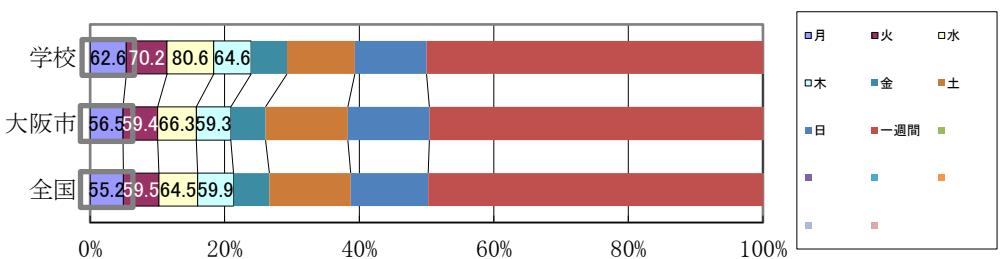
4

中学校に進んだら、授業以外でも自主的に運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。



5

ふたんの1週間について聞きます。学校の体育の授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを、合計で1日およそ何分くらいしていますか。



### 成果と課題

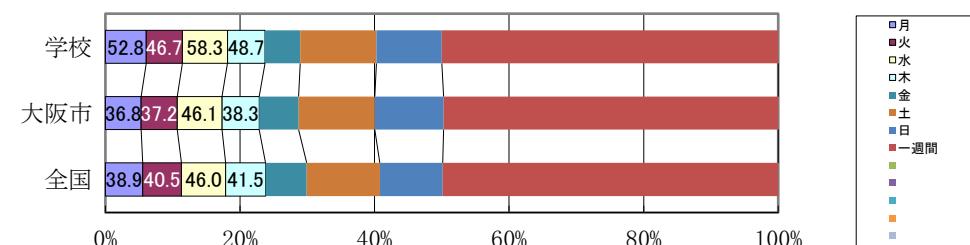
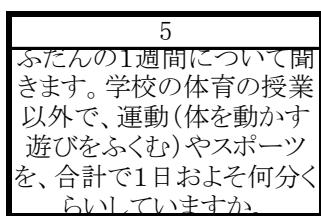
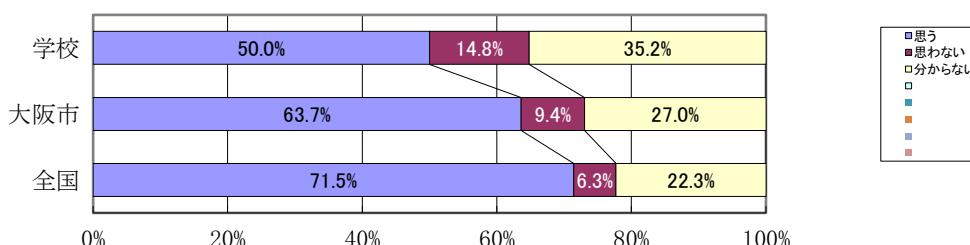
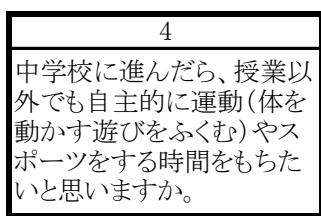
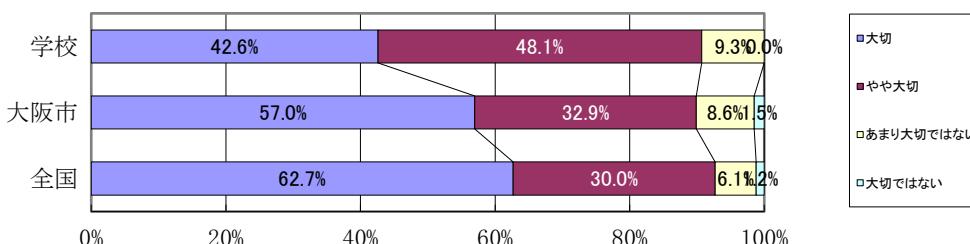
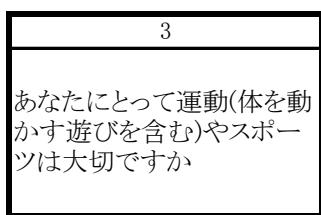
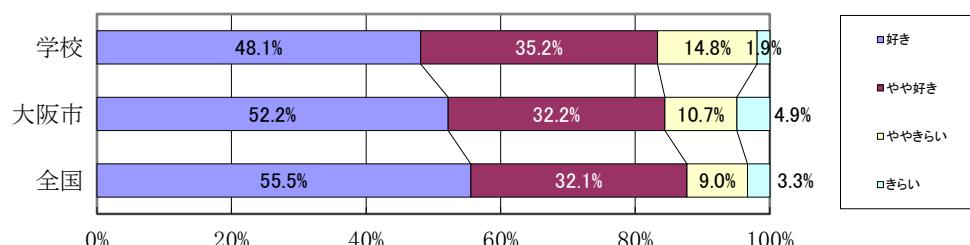
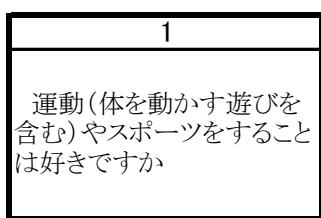
運動やスポーツをすることに対して肯定的(好き・やや好き)に答えた児童は、全国、大阪市の数値を上回った。また、運動好きな児童は、「スポーツは大切である」という気持ちをもっていることもわかった。そのような児童は学校の体育科の学習以外で体を動かしている割合が非常に多くなった。

### 今後の取組

運動やスポーツをすることに対して否定的に答えた児童が、「体を動かすことって楽しい！」と感じられる体育科の学習(「わかる・できる」を実感できる体育科の学習)を展開していく必要がある。来年度から行っていく「横堤メソッド」(体育科の授業の始まりの5分間に行われる子どもの発達段階、領域に応じた準備運動のこと)を活用して、充実した体育科の授業を展開できるようにする。

## 運動やスポーツについて（女子）

質問番号	質問事項
------	------



成果と課題

運動が好きと肯定的に答えた児童は、1週間の総運動時間が多くなるという傾向がある。同様に中学校に進学してから運動部に所属しようと思っている児童の割合も多くのくなる。逆に否定的に答えた児童は1週間の総運動時間が少なくなる。運動やスポーツの楽しさを味わうことができるよう、指導法を工夫し、授業の改善を行っていく必要がある。

今後の取組

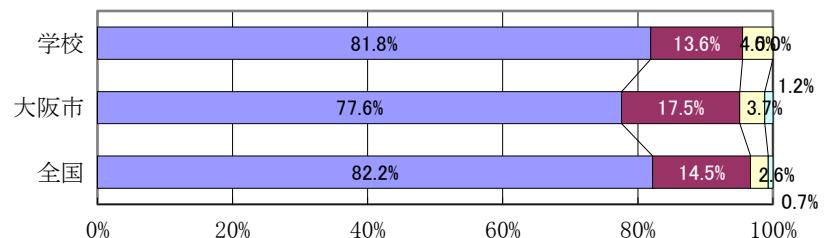
今後の取組  
全国や大阪市と比べ、運動をすることが好きと答える児童の割合が少ない。児童が、運動やスポーツを楽しいと感じることができるように、体育科の実技研修や講義を実施し、教員の指導力向上に努める必要がある。また、授業だけでなく、休み時間に外に出て、運動やスポーツに親しむことができるよう、遊び方や新しい場の設定(ボールゾーンの拡大、学級に配付するボールの数を増やす、横堀ブルペンの新設など)を工夫・改善していく。

## ふだんの生活について（男子）

質問番号	質問事項
------	------

6

朝食は毎日食べますか(学校が休みの日もふくめます)



- 毎日食べる
- 食べない日もある
- 食べない日が多い
- 食べない

7

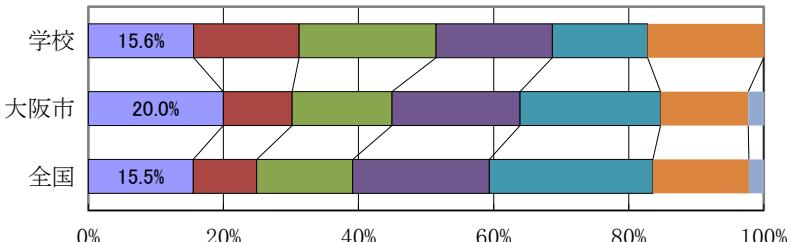
毎日どのくらいねていますか。



- 10時間以上
- 9時間以上10時間未満
- 8時間以上9時間未満
- 7時間以上8時間未満
- 6時間以上7時間未満
- 6時間未満

8

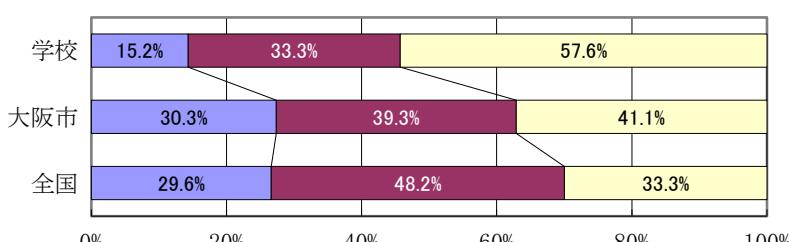
平日(月～金曜日)について聞きます。1日にどれくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか。



- 5時間以上
- 4時間以上5時間未満
- 3時間以上4時間未満
- 3時間未満
- 2時間以上3時間未満
- 1時間以上2時間未満
- 全く見ない

9

学校の運動部や学校外のスポーツクラブに入っていますか(スポーツ少年団をふくむ)。



- 運動部
- 地域のスポーツクラブ
- 入っていない
- その他
- その他

### 成果と課題

朝食を食べている児童ほど、体力合計点が高い。朝食を食べることで力が入り、本来の力が発揮できるのではないかと考えられる。同様に、睡眠時間が長い児童ほど、体力合計点が高くなっている。日々の啓発や保健領域の学習を充実させるとともに、地域・保護者とも連携を図り、基本的な生活習慣を身に付けさせてていきたい。

### 今後の取組

近年、スマートフォンなどの機器が広まりを見せ、ゲームで遊ぶ児童が増加し、公園など外で遊ぶ児童が減少している。そのことが児童のスポーツに親しむ機会を減少させている。学校の運動部や学校外のスポーツクラブに入っている割合は全国、大阪市を大きく下回っている。本校子ども会のソフトボールチームやキックベースボールチームとの連携を深め、児童が運動やスポーツに親しみをもつことができるようにならねたい。

## ふだんの生活について（女子）

質問番号	質問事項
------	------

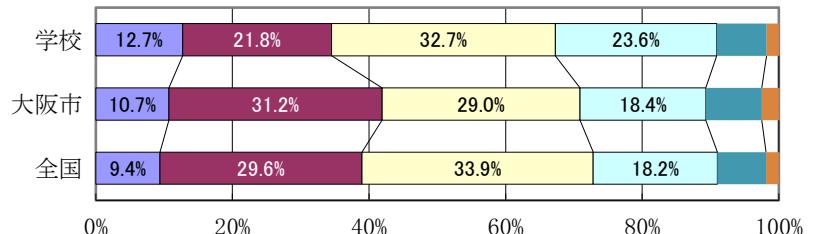
6

朝食は毎日食べますか(学校が休みの日もふくめます)



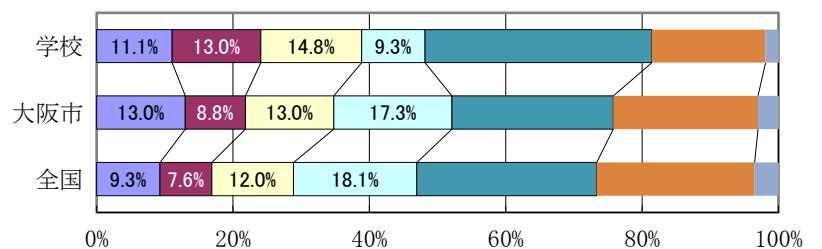
7

毎日どのくらいねていますか。



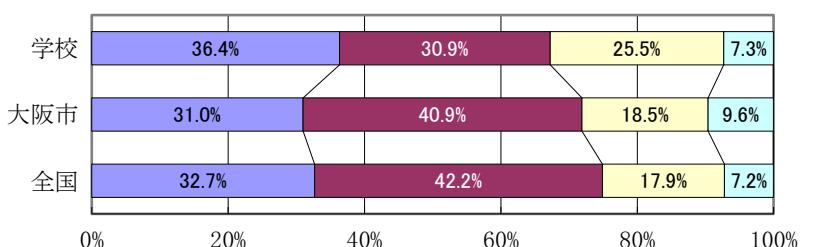
8

平日(月～金曜日)について聞きます。1日にどれくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか。



10

放課後や学校が休みの日に、運動部や地域のスポーツクラブ以外で、運動(体を動かす遊ぶをふくむ)やスポーツをすることがありますか。



### 成果と課題□

朝食を毎日食べている児童は、食べていない児童よりも体力合計点が高い傾向となった。また、睡眠時間が長いほど体力合計点が高くなり、体力の向上にはきちんとした生活習慣が大切であることがわかる。

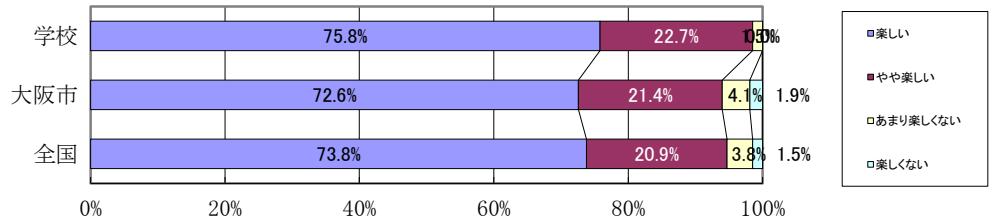
### 今後の取組

近年、スマートフォンなどの機器が広まりをみせ、ゲームで遊ぶ児童が増加し、公園など外で遊ぶ児童が減少している。そのことが児童のスポーツに親しむ機会を減少させている。「放課後や学校が休みの日に運動部や学校的運動部や学校外のスポーツクラブ以外で運動やスポーツをすることがあるか」の質問に対して「よくある」と答える児童の割合は全国や大阪市より多くなっているが、「ときどきある」を含めると全国や大阪市を下回る。「体育科で学習したことを休みの日にしてみたい！」と児童が思えるよう、授業展開や指導法の工夫を行っていきたい。

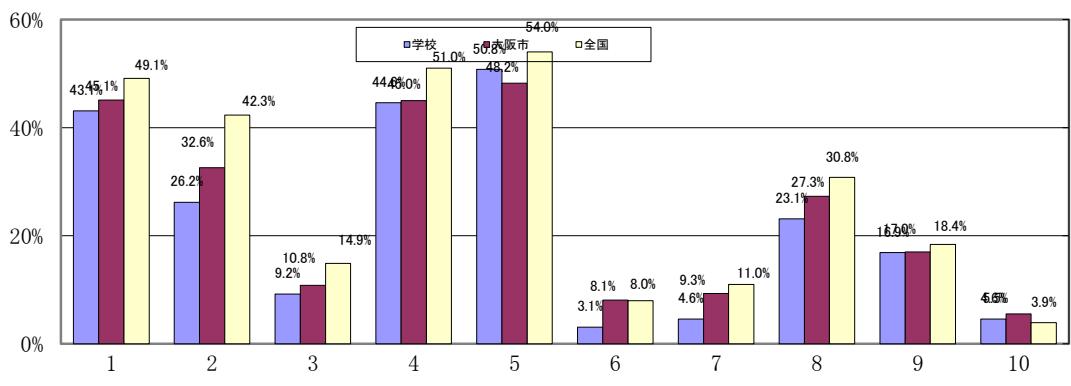
## 体育の授業について（男子）

質問番号	質問事項
------	------

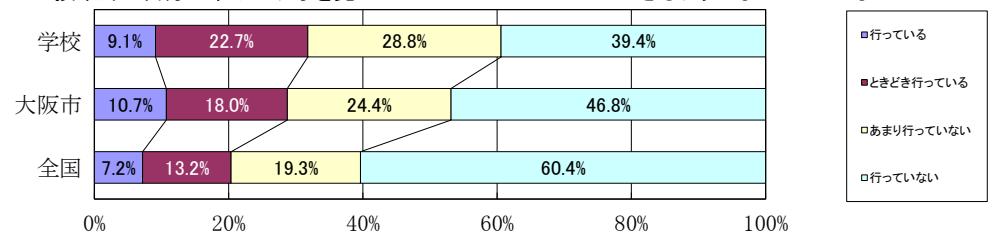
11  
体育の授業は楽しいですか



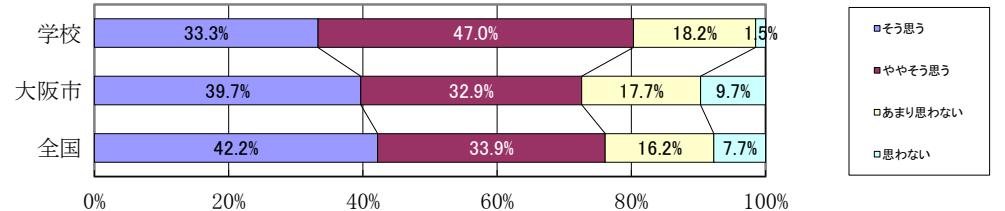
17  
これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか



18  
体育の授業で、部でオ・デジタルカメラ、タブレットなどを使って活用する活動を行っていますか



20  
体育の授業で学んだことを、授業以外の時にも行ってみようと思う。



### 成果と課題

「体育の授業は楽しいですか」という項目に対して、肯定的に回答した児童ほど、体力合計点が高い傾向となった。本校では体育科の授業でICT機器を積極的に活用した(行っていないと答える児童の割合が少ない)。しかしながら、そのことで、「できなかったことが、できるようになった」と感じている児童の割合は全国・大阪市と比べて少ない。児童が「わかる・できる」を実感できるよう、ICT機器の活用の仕方(何を撮るのか、どこで撮るのかなど)を工夫していかなければならぬ。

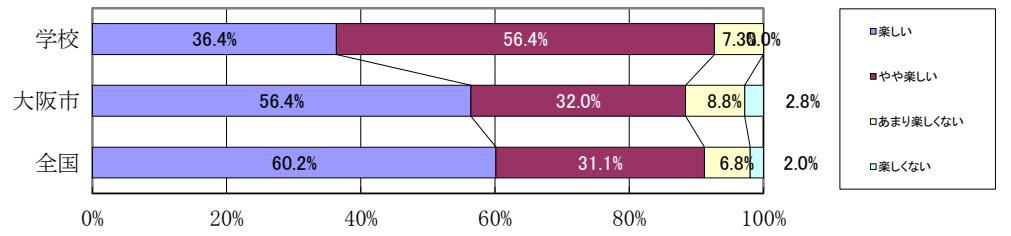
### 今後の取組

「体育の授業が楽しいですか」という項目で、否定的に答えた児童が「わかる・できる」を実感し、体育って楽しいと思えるよう指導法の工夫を行っていく。「横堤メソッド」の活用や、「教えること・気づかせること」を明確にすることで充実した学習を行っていけるようにしたい。

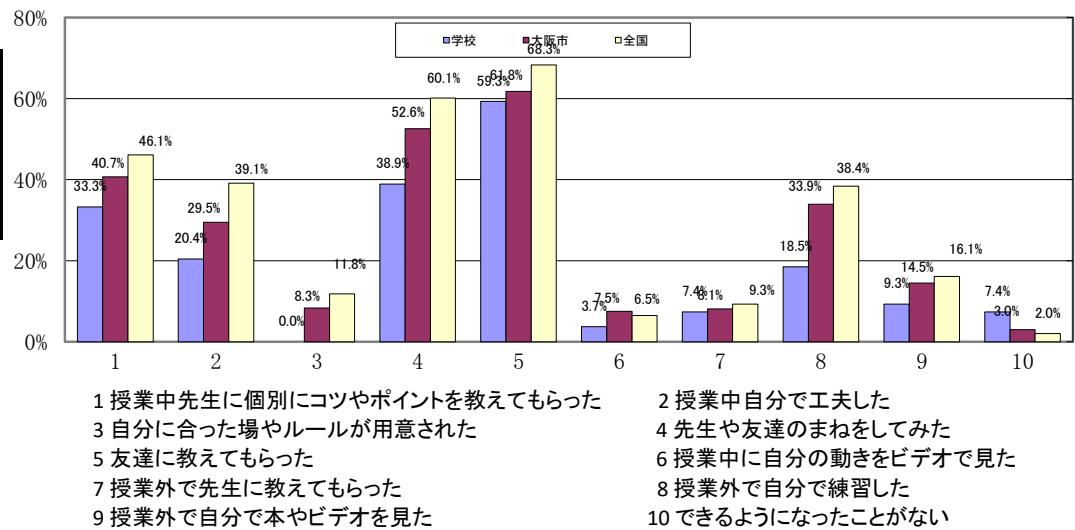
## 体育の授業について（女子）

質問番号	質問事項
------	------

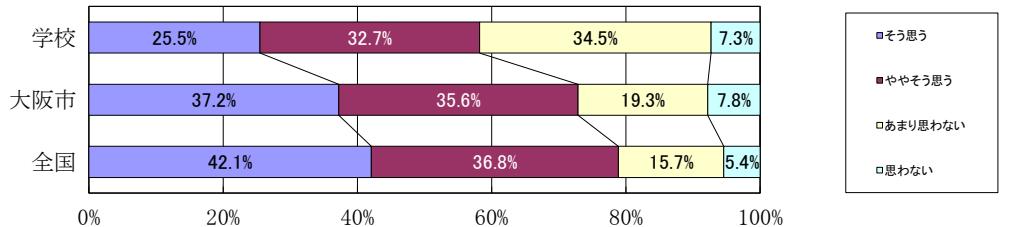
11  
体育の授業は楽しいですか



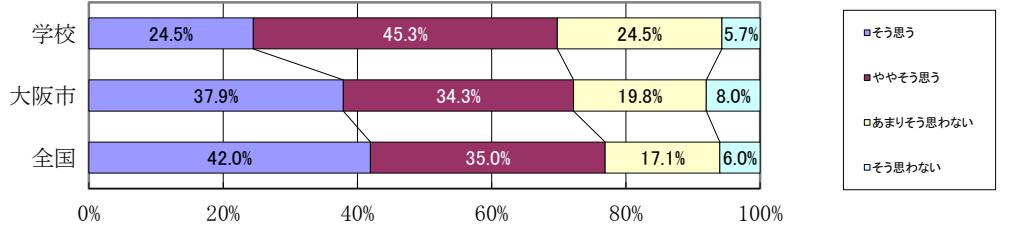
17  
これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか



20  
体育の授業で学んだことを、授業以外の時にも行ってみようと思う。



21  
今、体育の授業で学習している内容は、あなたの将来に役に立つと思いますか。



### 成果と課題

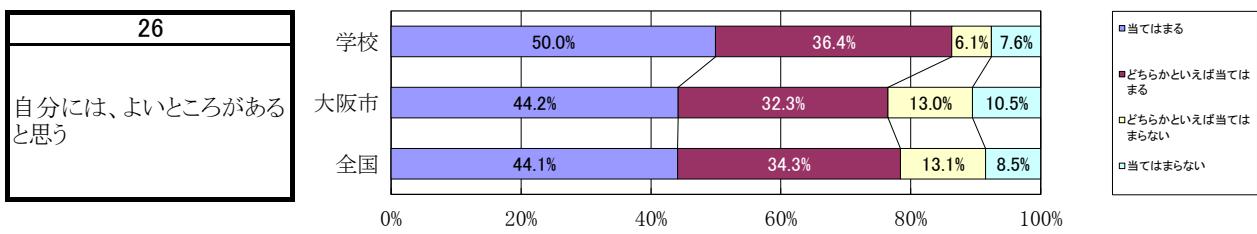
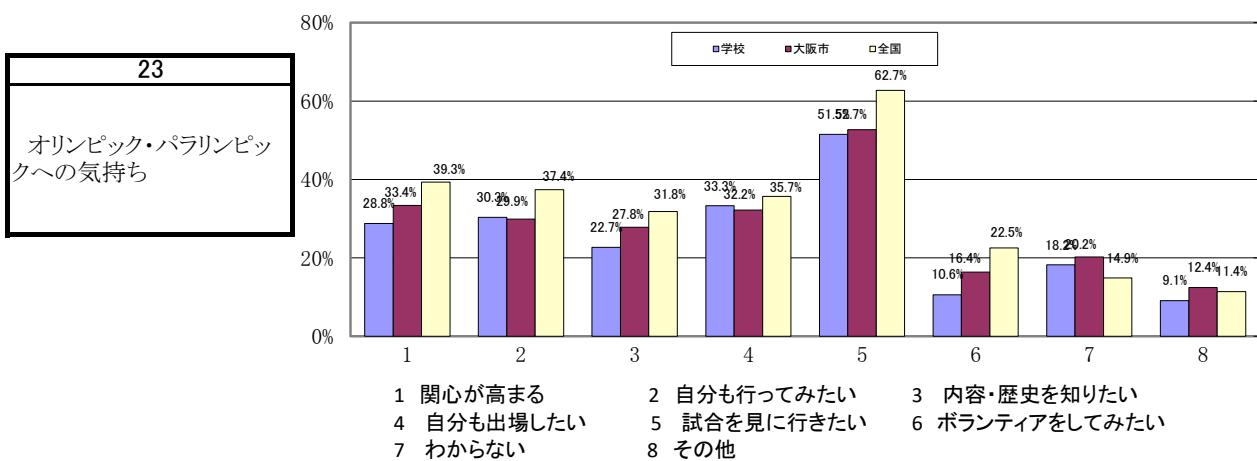
体育の学習が好きの項目で、肯定的に回答した児童は、体力合計点が高い傾向となった。「これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか」の質問において、「自分に合った場やルールが用意された」と答えた児童はいなかった。授業中の個人の力や課題に合った場の設定の工夫を行っていかなくてはならない。

### 今後の取組

男子児童と比較すると、女子児童は体育科の学習を苦手にしている割合が多くなっている。個人の力に合わせた明確な課題をもたせたり、練習内容・方法を設定したりするなど、ひとりひとりが主役になれるような学習展開を行っていく。校内研修会を通して、めあてのもたせ方や場の設定の仕方などを広めていく必要がある。

## その他（男子）

質問番号	質問事項
------	------



### 成果と課題

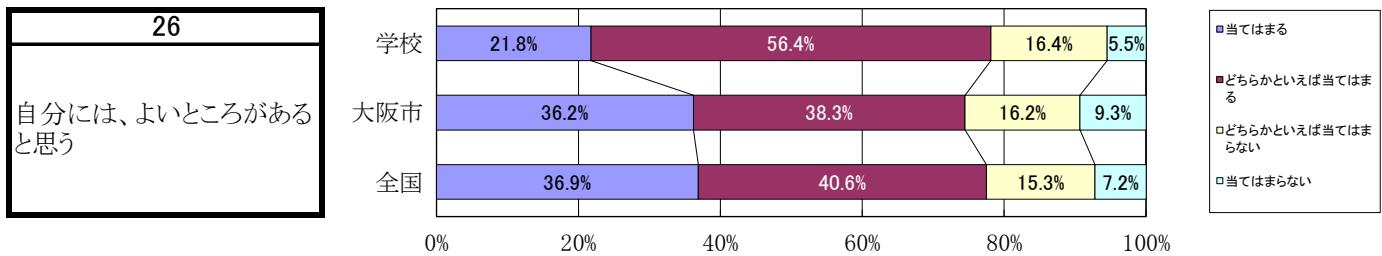
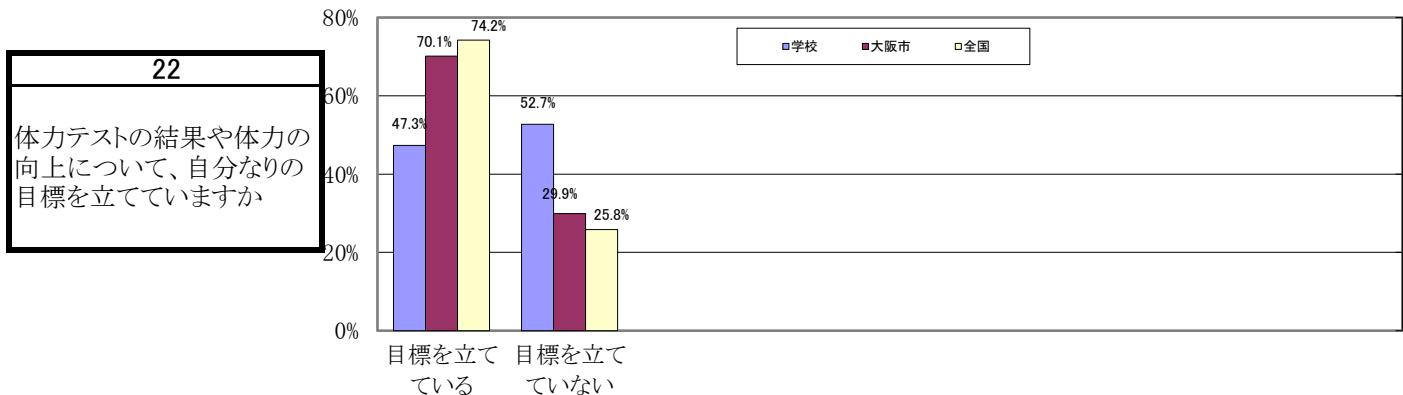
オリンピックに対して興味をもっている児童の割合が全国、大阪市よりも少ない結果となった。自分には、よいところがあると思うという項目に対して、86%以上の児童が、自己肯定感をもっている結果となった。

### 今後の取組

オリンピックに対する児童の興味・関心が低くなっている。社会科や道徳の学習など他教科においてもオリンピックに関する学習を行い、児童がオリンピックに触れる機会を増やしていきたい。また、「トップアスリート夢授業」を通して、運動やスポーツに親しみを感じさせ、「自分もスポーツをやってみたい！」という気持ちを育んでいきたい。

## その他（女子）

質問番号 質問事項



### 成果と課題

体力テストに目標をもって取り組んでいる児童がとても少ない。また、自分に良いところがあると思うという項目に対して、「当てはまる」と答えた児童の割合も、全国・大阪市と比べ少ない。

### 今後の取組

「わかる・できる」を実感できる体育科の授業を開くことで、児童の自己肯定感を高めていきたい。また、体育科の学習においても、授業のはじめにきちんと本時のめあて（チームのめあて・個人のめあて）をもたせるようにする。「めあてをもって活動に取り組むこと」を普段から意識させたり、体力テスト目標カードを作成したりと学校全体で児童の意識改革に取り組めるようにしたい。